


# 御前山ビオトープ通信

平成16年3月18日

## 第3号

編集： NPO「美しい田園21」 清野 

メール：[denen21@hb.tp1.jp](mailto:denen21@hb.tp1.jp)

ホームページ：

(本号はホームページ掲載記事を再編集したものです)

【案内図】



### 目次

- 1 ワークショップと集落勉強会開催  
(農林建設情報新聞)

## 1 ワークショップと集落勉強会開催

### 御前山ダム「谷津坪沢ビオトープ」具体化へ、

関東農政局那珂川沿岸農業水利事業所では、御前山ダム関連の「谷津坪沢ビオトープ」の具体化を前に、2月23日(月)に地元集落への説明会とともに、清野所長により「**ビオトープを活用した村づくり**」と題した講演と勉強会を実施。

御前山村長を始め多くの関係者が参加して熱心な意見交換が行われるなど、地域と一体となった作業がスタートした。

また、完成後の管理等を考え、設計はコンサル、工事はゼネコンという従来の全面請負方式



をとらず、補完的な役割に留めて、**地域との共同作業**によりできるだけ手作りで進めることとした。

そのため、前段として事業所中庭に手作りビオトープを試作(平成15年10月9日号既報)するとともに、ワークショップ等で具体的な構想づくりを進めている。



現場では背丈以上に伸びきった原野の草木に正直なところ一瞬怯んだがチェーンソー、草刈り機、鎌などを持って悪戦苦闘しながら果敢に挑戦している。

職員には直営での測量、設計、施工で技術力向上を期待していたが、実際は体力向上と気分転換の場となっている。

またダムや環境問題への幅広い理解と連携の輪を拡大するため学校や各種団体等と**市民ネットワーク**の形成をめざしており、農作業や日曜大工が得意な者を始め、多くの参加者を期待している。



御前山ダム是那珂川沿岸農業水利事業の基幹的な水源施設であり、現在、基礎掘削がほぼ完了し、平成20年度の湛水開始を目標に工事が進められている。

ダム周辺は水戸藩の時代から御留山として保護され、現在も県立自然公園に指定され貴重な動植物が数多く生息していることから、事業実施に当たって環境への配慮が重大な課題となっている。

そこで事前総合調査の結果を踏まえて136種もの注目すべき種を整理し、ダム本体着工に先立って影響の大きい10数種を選定し、御前山村有林をはじめ周辺の適地に移植する等の対策を実施してきた。

しかし、湿地性の植物については敵地がすぐには見つからず湛水地内の仮移植地に移植していた。そのため、水没する前に仮移植地を始め、約50畝と広い湛水地の希少植物を本格的に移植する恒久的な保全地域を検討していた。

ダム上流域の谷津坪沢が離農跡地で水田も長く耕作放棄されて原野状態にあったことから、保存区域の適地として選定し、用地など地元調整もまとまって本格的に取り組むこととなったもの。

貴重種は水性や湿地性の動植物が多いことから、水田跡地を湿地として復元し、移植保全を図ることとした。

ビオトープは貴重動植物の保全の場だけでなく、学問的な調査研究の場、子供達の環境教育の場であるとともに、特に過疎の村にとっては地域活性化の基盤としての期待も大きい。



(平成16年3月18日 農林建設情報新聞に掲載)